

## 62. 視覚障がい者と盲導犬への理解を深める学びと体験

- 1 日程 2025年2月27日(木)  
2 場所 外濠校舎5階523～526会議室

### 3 概要

本企画は視覚障がい者の方々及び盲導犬への理解を深めること、及び学生ならではの柔軟な発想や視点を活かし、同世代の参加者を巻き込んで共に考える場を提供することを意図しました。そして周囲の正しい支援や意識の在り方を知ってもらうことで、若者世代にも盲導犬及びその使用者の方への理解を浸透させ、啓発活動の第一歩として、盲導犬使用者が暮らしやすい社会の実現に貢献することを目指しました。「特定非営利活動法人 日本補助犬情報センター」さんにご協力いただき、講義やガイド体験、参加者同士のディスカッションを通じて、視覚障がい者の方々が直面する課題や、盲導犬の役割についての知識や理解の習得を促しました。また、ガイド体験を通して視覚障がい者の方々の困難さや必要なサポートを体感して、一人ひとりの当事者意識を高めることができ、有意義な企画となったと感じます。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部法律学科1年 深澤 春香

- 4 参加人数 25名(法政大22名、共立女子大1名、東京家政大1名、専修大1名)

### 5 企画学生の感想

本日は貴重なお話ありがとうございました。盲導犬ユーザーの方々普段どのようなことを考えているのか、生の声を聞くことができ、講義前と講義後でイメージがガラリと変わりました。自分に出来ることは多くありませんが、お話の中にあつた魔法の言葉を使って支援していくとともに、少しでも盲導犬の存在を世の中に伝えていくお手伝い出来ればいいなと思いました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 経営学部経営学科3年 田上 皓太

今回のことを通して、補助犬についてさまざまなことを知ることができた。自分が知らなかったことが想像以上に多く、ワークを通じて体験することで、補助犬の重要性や日常生活の大変さを実感した。また、今後は普段の生活の中で助けが必要な方を見かけたら、勇気を出して声をかけ、自分にできる限りのことをしようと考えた。

デザイン工学部都市環境デザイン工学科3年 齊藤 蔵人



白杖体験の様子



集合写真

# 63. 熊本スタディツアー

1 日程 2025年3月4日(火)～3月6日(木)

2 場所 熊本県熊本市・阿蘇市・南阿蘇村

## 3 概要

2025年3月4日(火)、5日(水)、6日(木)に「熊本スタディツアー」を実施した。2016年4月14日と16日に、震度7を記録する揺れが28時間以内に連続して発生するという極めて異例な地震が熊本で起きた。この地震により、270人以上もの尊い命が奪われ、「平成28年熊本地震」と呼ばれるようになった。死因の内訳は、地震による直接死(強い揺れによる建物の倒壊や土砂崩れによる死亡)が50人であったのに対し、災害関連死(災害による直接的・物理的な事故死、例えば水死や圧死など)が4倍以上の215人にのぼった。また、熊本県は地震の被害に加えて、阿蘇山の噴火や、2023年7月3日に発生した線状降水帯による大雨による水害など、さまざまな災害に見舞われている。私たちが今回活動を行うにあたっては、熊本県が経験した多くの災害から復興する過程を、講話や見学を通して学び、災害における直接死・関連死を減らすために、今後の備えをどのようにしていくべきかを学ぶことを目的とした。日程については以下の通りである。現地到着後、熊本県防災センターの見学を行い、熊本県総合福祉センター KVOAD 樋口様より講話をいただいた。2日目は、熊本県地震震災ミュージアム KIOKU にてガイド付きの見学を行い、熊本大学 黒髪キャンパスにて熊本大学工学部公認サークル熊助組との交流会を行った。そして、熊本城の見学を行った。3日目は、阿蘇火山博物館の見学を行った。今回の熊本スタディツアーでは、震災を経験された方々からお話を伺うことや実際の被害の状況を展示や遺構を通して知り、当事者の目線に立って考えることができる貴重な機会となった。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 人間環境学部人間環境学科2年 大山 奏

## 4 学生参加者数 30名

## 5 参加学生の感想

今回のスタディツアーでは、大きく分けて2点、印象深かった事があった。第一に、現在熊本県内において、熊本地震をはじめとした過去の災害の経験が活かされている事が挙げられる。熊本地震の以前、熊本県内では「この辺りで大きな地震災害が起こることはない」という考えをしている人が殆どだったという。しかし、地震後の熊本では、災害時に使う設備が県庁にしっかり常設されたり、熊本地震の記憶を継承し、活かしていく取り組みがなされている事がわかった。第二に、災害とは地震だけでない。という事を知ることができたことが挙げられる。これまでチームオレンジでは、地震による災害に注目する事が殆どであった。しかし、今回のスタディツアーでは、阿蘇山にて日本全国における火山や地殻変動などによる災害の可能性を知ったり、全体を通して熊本県内での水害の被害や危険性を知る事ができた。ここから、災害はその形態も被害もさまざまだとわかった。

人間環境学部人間環境学科2年 西山 惺





阿蘇火山博物館での様子



阿蘇火山の生い立ちについて学ぶ学生



熊助組と交流する学生スタッフ



被災した旧東海大学阿蘇校舎 1号館建物を見学する学生



阿蘇山の前で記念撮影



熊本大学工学部公認サークル「熊助組」の皆様と記念撮影

# 64. 2024年度東京メトロ飯田橋駅ボランティア活動報告会

1 日程 2025年3月11日(火)

2 場所 富士見ゲート4階 G403教室

## 3 概要

活動報告会は、1年間の活動を振り返り、実施した活動内容・反省・今後の展望について日頃本ボランティアを支えて下さっている方々に伝える会です。今年度も東京地下鉄(株)様・公益財団法人日本ケアフィット共育機構様をお招きし、東京メトロ飯田橋駅ボランティアの活動報告会を行いました。また、本報告会は一般学生へも公開しており、今年度は4名(対面参加1名・zoom参加3名)が参加して下さいました。今年度は6名のメンバーで1月から準備を進めました。発表内容は「普段の活動について」「研修会」「交流会」「定例会」「総括」の5つに分け、PowerPointを用いて報告しました。PowerPointを作成する際にはZoomを開放し、並行して作業をする日を設けました。そうすることにより、昨年度の参加メンバーから情報共有が出来、全メンバーが円滑に資料の準備を進めることが出来ました。当日は、学生スタッフからの活動報告発表、質疑応答、学生スタッフからの今年度を振り返った感想、東京地下鉄(株)様からの表彰、東京地下鉄(株)様・(公財)日本ケアフィット共育機構様からの講評というプログラムで行われました。講評を受け、この活動の意義や目的を再確認する場になると同時に、本ボランティアが行いたいことと東京地下鉄(株)様が求めていることのすり合わせをすること・介助セミナーの内容と本ボランティアにて必要である知識・技術に齟齬がないかの確認を行うことが出来ました。

ボランティアセンター学生スタッフ東京メトロ飯田橋駅ボランティア デザイン工学部都市環境デザイン工学科2年 小森 陽

4 学生参加者数 13名

## 5 参加学生の感想

長期休みの間は人前で発表する機会があまりなかったので、今回の報告会に参加できてよかった。サービス介助講師の方々や東京地下鉄株式会社の方々が忙しい中来てくださり、無事に発表を終えることができた。

また、先輩方やボランティアセンターの方にも温かくサポートしてもらい、とても助かった。この一年間の活動を通して貴重な学びを得ることができたので、今回の経験を今後のボランティア活動に活かしていきたい。4月からは新しいメンバーとの交流も始まるので、先輩として無理のない範囲で支えながら、一緒に活動していこうと思う。一年間、ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

法学部国際政治学科1年 荒川 ひかり

メトボラとして1年間活動を行い駅で困っている方々に手助けをする中で、たくさんの学びと貴重な経験を得ることができました。報告会では、東京地下鉄株式会社の方々と直接交流し、活動内容を評価していただくことができ、大きな励みになりました。報告を通じて、活動の改善点や新たな提案ができ、今後の活動を進めていく上での手がかりを得ることもできました。自分の活動が、地域社会にどのように貢献しているかを再認識し、今後もさらによりよいサポートができるようにしたいと感じました。これからもより多くの人々の力になれるよう、努力を続けていきたいと思えます。

デザイン工学部都市環境デザイン工学科1年 茂木 礼花





研修会について発表する学生



感謝状を授与される学生



総括を述べる学生



記念撮影

# 65. 法政大学・関西大学コラボ企画 スポーツ×ゴミ拾い

1 日程 2025年3月14日(金)

2 場所 外濠校舎2階S205教室

## 3 概要

昨年に引き続き、スポーツとゴミ拾いを融合した「スポごみ企画」を実施しました。関西大学さんとZoomをつないで、地域を超えて合同で実施しました。この企画ではゴミ拾いというボランティアの中にゴミの質と量によって得点をゲットするゲームの要素を加えることで、楽しくボランティアできるような活動を目指しました。今年度は法政大学 VS 関西大学さんという形式で競い合いました。当日はとてもいいお天気で、ごみ拾い日和でした。ゴミ拾い後は両校で交流の機会としてお互いの学校に関するクイズ大会を実施し、充実した時間となりました。ごみ拾いをスポーツ化することで、参加者の皆さんには楽しく社会のためとなる活動に参加していただけました。「スポごみ」がさらに広まり、ボランティア活動に参加しやすくなると思います。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 経営学部経営戦略学科1年 酒井 彩七

4 学生参加者数 24名(法政12名 関西大学12名)

## 5 企画学生の感想

当日参加してくださった皆さんと楽しくごみ拾いをすることが出来ました。スポーツ要素があることによって、より参加者の方々とはやく打ち解けることが出来たように感じます。本企画がゴミ問題への意識や関心を持つきっかけとなっていればうれしいです。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 人間環境学部人間環境学科1年 児玉 彩寧

## 6 参加学生の感想

今回スポーツゴミ拾い企画に初めて参加させて頂きました。普通にゴミを拾うのとは違って競いながらゲーム感覚で楽しみながらゴミを拾うことができ楽しみながらできたので良かったです。ゴミの種類は、やはりタバコの吸い殻が1番多かったのですが、今回私たちの活動を見て、ゴミを捨てる人が少しでも減ってくれたらいいなと思いました。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 文学部心理学科3年 渡邊 日花里

普段歩いていると気にしない所を見るとゴミがたくさん落ちていて驚きました。様々なゴミ拾い企画を通して綺麗にできるのは良いことだと思います。また新しいゴミ拾い系の企画ができると面白いと思います。今日はそのスポごみだけでなく、アイスブレイクやクイズを通して楽しむことができてよかったです。ゴミ拾いも様々なゴミが落ちていて興味深かったです。参加できてよかったです。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 工学部経営システム工学科3年 山本 樹輝

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフVSP企画  
法政大学・関西大学コラボ企画  
**スポーツ×ゴミ拾い**

スポーツ×ゴミ拾い=スポごみとは12チームに分かれてゴミ拾い&レク！  
最もスコアが高いチームの優勝！  
優勝チームには景品が...！  
楽しくゴミ拾いしませんか？

法政大学キャラクター えこびよん

関西大学ボランティアセンター マスコットキャラクター まもるくん

日時：3/14(金) 13:00-16:15頃  
集合時間：12:50  
集合場所：外濠校舎2階S205教室  
定員：10名  
【予備日：3/17(月)】



ボランティアセンター  
Youtubeチャンネル



お申し込みフォーム

<お問い合わせ先>  
市ヶ谷ボランティアセンター  
(外濠校舎1階学生センター内)  
TEL:03-3264-9516  
Mail:ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp



キャンパス周辺のごみを拾う参加者



集合写真

## 66. 料理を通して子供達と交流を深めよう！

- 1 日程 2025年3月16日(日)  
2 場所 東京都渋谷区「地域交流センター代々木の杜」

### 3 概要

今回、市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ VSP は、多くの人々に愛されているラーメンの食べ比べと日本の伝統的な踊りである「よさこい」体験を通して子ども達と交流を深めながら、日本の文化や地域の食文化の特徴についてより興味を持ってもらおうと考え、本企画を実施しました。そこで、「社会福祉法人渋谷区社会福祉協議会 子ども支援課子どもテーブル係」様にご協力いただき、参加者の募集、企画実施場所の提供などのサポートをしていただきました。本企画前半では、自宅で再現しやすいようにアレンジしたレシピを参考に地域ごとのラーメンを3種類食べ比べし、餃子の皮を用いて具材を自由に寄せ、個性豊かなピザを作りました。今回は「高山ブラックラーメン」、「札幌味噌ラーメン」、「博多とんこつラーメン」の3種類を再現しました。それぞれ麺やスープ、ネギの切り方、盛り付けの方法などが異なり、各担当グループの説明を聞きながら特徴を踏まえ食べ比べすることができました。一度に3種類のラーメンを食べるといふなかなかない体験で、手順が多い中でも子ども達は率先して取り組み、楽しんでくれていました。企画後半は、よさこいでソーラン節を踊りました。初めてよさこいを体験する子どもがほとんどで、見本を見ながら鳴子を自由に鳴らして一生懸命踊っていました。特に最後の決めポーズでは、個性が溢れてとても楽しい時間でした。お腹いっぱい食べた後のいい運動になりました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科1年 宮本 タ凧子

### 4 参加人数 20名(法政5名、子ども15名)

### 5 企画学生の感想

15人もの子ども達と一緒に料理を体験しよう、というのは楽しくもありましたが、反省点も多々浮かんだものでした。企画進行のためにやらなければいけないことに気を取られ、子ども達一人一人を丁寧に見てあげられなかったと振り返ります。その一方で、子ども達からは、「美味しい！おかわりない？」や、ラーメンのレシピを配布した際、「今日お家でつくるね！」などの声や子ども達の笑顔も多く見受けられました。この時点で、子ども食堂企画は良い形で終わったのかなと思いました。私としては子ども達がレシピを見ながら、普段なかなかできない「ラーメンを作る」という体験を通して、家庭においても子ども達やそのご家族の顔に笑顔が浮かんでいたとすれば、これ以上幸せなことはないです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 国際文化学部国際文化学科1年 中村 大



伝統的な「よさこい」を披露する様子



みんなの世界テーブルの皆さんと VSP 企画者の皆さん

## 67. 熊本スタディツアー 報告展示会

1 日程 2025年3月25日(火)～3月26日(水)

2 場所 外濠校舎1階 メディアラウンジ

### 3 概要

2025年3月4日から6日の三日間でくまもと災害ボランティア団体ネットワーク KVOAD 様、熊本大学熊助組様、各施設関係者の皆様のご協力のもと、熊本スタディツアーを実施いたしました。ツアーでは震災展示施設を訪れたり、現地の方にご講話をいただくことで災害について学びを深めることが出来ました。これまでチーム・オレンジの活動の範囲は地震災害が中心でしたが、今回のツアーでは阿蘇火山や博物館に訪れることで新たな学びを得ることもできました。これらの学びをより多くの学生に知ってもらうため、スタディツアー運営学生でスタディツアーの記録を展示しました。

### 4 企画学生の感想

3月4日から6日にかけて行われた熊本スタディツアーの展示企画を行いました。この展示企画は実際に熊本に訪れたことで新たに知ったことや感じたことを参加していない法政大学の学生にも伝えることで、災害についての理解を高めることを目的として実施しました。今回の展示企画を通して誰かに伝えることの大切さを感じました。スタディツアーに参加して、現地で感じたことを自分の中で理解するだけでなく、誰かに伝えるためにまとめたりレイアウトを工夫することで、得た知識や見たものを自分の中でも整理することが出来ました。震災を風化させないということだけでなく、災害学習を通して得た知識をこれからに生かすという点においても意味のある展示企画だったのではないかと思います。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 法学部法律学科3年 齊藤 美穂

ポスター掲示で周りに発信するだけでなく、自分自身現地で学んだことを振り返ることもできたので良い機会だった。また、ポスターにまとめていく課程の中で、防災対策の課題や地元のコミュニティの薄さなど改めて認識して、定期的に振り返ることの大切さを実感した。報告会のあり方については、メディアラウンジのみならず学内の掲示板などにもポスターを貼るなど、より多くの人の目に止まるよう工夫ができれば良かった。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 人間環境学部人間環境学科2年 佐藤 花莉



報告展示会の準備をする学生



活動報告をする学生

## 68. 法政大学×ベイラー大学 交流企画

- 1 日程 2025年3月25日(火)
- 2 場所 市ヶ谷キャンパス外濠校舎5階523～526会議室、Zoom

### 3 概要

かねてより本学と協定を結び、派遣留学や語学研修などを通じて交流のあるベイラー大学と、本企画をオンラインで実施しました。自国の文化を紹介し合い、異文化間の相互理解を深めたいという思いで企画し、活発な交流が行われました。法政大学からは参加者の名前に当て字を考案し、それぞれの漢字に込めた意味を発表しました。当て字発表の後は書道パフォーマンスを行いました。現地の協力を得て書道用具一式をご用意いただき、参加者と共に筆を取り、日本の伝統文化である書道を体験していただきました。完成した作品にはそれぞれの当て字が書き入れられ、記念に残る一枚となりました。ベイラー大学からは季節のイベントである「イースター」にちなんだクイズを出していただきました。多様な設問を通じてイースターという行事がイベントではなく、宗教的・文化的背景を持つ伝統行事であることを学ぶことができました。企画の最後には両大学が行っているボランティア活動について紹介し合い、今後の活動に繋がるきっかけとなりました。今回の企画はオンラインでの実施でしたが限られた時間と空間の中でも深い交流と学びが実現できる非常に充実した時間でした。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部史学科2年 伊澤 美祐

### 4 学生参加者数 16名(法政8名 ベイラー大学8名)

### 5 企画学生の感想

今回のベイラー大学との企画はオンラインでの実施ではあったが、リアルタイムで互いの文化を実践的に学ぶことができる非常に有意義な交流となった。私たち学生スタッフは書道パフォーマンスを披露し、現地の学生の名前を漢字で当て字にしてそこに込められた意味を説明したり、実際に書道を体験してもらったりと日本の文化を直々に伝えることが出来たのではないかと思います。また、ベイラー大学からもイースターに関するクイズを出してもらい、学生たちのエピソードを聞くことができたりと私たちにとっても現地の文化を知ることが出来る実りある交流となった。どうしたらわかりやすく現地の学生に日本の文化の特徴、良さを伝えられるかを試行錯誤しながら企画を進めることができ、当日も互いの文化を尊重し学びあう事の楽しさを実感することが出来た。今回はオンライン形式での文化の交流であったが、次回のベイラー大学との対面での交流企画も前向きに進めていけたらと思う。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP キャリアデザイン学部2年 石堂 莉音

今回の企画は、自国の文化を楽しみ身近に感じてもらうことを軸に交流会を実施できたと感じる。交流会に向けて約半年間、VSPのメンバーと職員さん、ベイラー大学の先生と共に協議を重ね実施したこの企画は、本番直前まで変更点が多かったので少し不安が残った状態でのスタートだったが、お互いの文化を紹介・体験するにつれ参加者の笑顔が増え、何となく知っている文化の一部から馴染みがあり楽しいものに変化したのではないかと感じた。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部国際政治学科2年 鈴木 莉々名

企画を通してベイラー大学の方々と交流することが出来て本当に楽しかったです。また、ベイラー大学の皆さんの名前を漢字で考えていく過程も、とても貴重な経験ですごく楽しかったです。企画当日、私たちが考えた名前の当て字を一生懸命書いている様子を見て、とても嬉しかったです。漢字や習字など、日本の文化を他の国の方に知ってもらうという経験を通して、異なる文化を持つ人と交流することがこんなにも楽しいのだと知ることができて本当に良かったです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP キャリアデザイン学部1年 大塚 百夏

今回の海外大学交流ボランティアでは、書道パフォーマンスを通じて日本文化の魅力を伝えることができ、とても貴重な経験となりました。特に当て字の紹介では、海外の大学生が自分の名前に込められた意味を知り、興味深そうにしていたのが印象的でした。一緒に筆を動かす



時間では参加者全員が楽しんで取り組み、完成した作品を嬉しそうに見せあっていました。言葉や言語の壁を越えて交流できたことがとても嬉しく、満足出来て良かったです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 国際文化学部1年 谷高 愛

## 6 参加学生（バイラー大学の学生）の感想

I really enjoyed learning about calligraphy from Hosei students! I appreciate the effort made to create Ateji for each participant. Everyone had a great time!

訳：法政大学の学生から書道を習うのは本当に楽しかったです！参加者一人一人のために当て字を作成する努力に感謝します。皆が素晴らしい時間を過ごしました！

Adam Deslatte

I thought this project was very fun and informative. I was happy to be able to talk with students from Japan and exchange our knowledge on culture.

訳：このプロジェクトはとても楽しく、有益だと思いました。日本の学生と話し、文化についての知識を交換できて嬉しかったです。

Spencer Hammack



自己紹介をしながら最初の挨拶をする企画者



企画終了後の集合写真

# 69. ブラインドサッカーから学ぶ心のバリアフリー 世代を越えてパスをつなごう

1 日程 3月28日(金)

2 場所 法政大学市ヶ谷総合体育館5階

## 3 概要

パラスポーツ啓発活動の一環として、ブラインドサッカーの体験を行いました。今回の企画はブラインドサッカーというスポーツを体験することだけでなく、バリアフリーという点で学びを得てほしいという考えから企画しました。当日は特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会様とブラインドサッカー競技者の方に講師としてお越しいただきました。また参加者は本学の学生のみならず、一ツ橋ロータリークラブ、千代田区社会福祉協会様、千代田区サッカー協会様のご協力のもとお年寄りから小学生にも声をかけて頂き、幅広い年齢層の方に参加して頂きました。初めて来校される方のために、企画の初めにキャンパスツアーも行い、市ヶ谷キャンパスの魅力について知ってもらうことができました。さらに大塚製薬株式会社様から清涼飲料水と栄養補助食品を頂きました。普段当たり前のようになっている視覚に頼れなくなった場合、どのように情報を取得し伝達するのかなどコミュニケーション方法から学び、自分から発信する言葉や音の重要性、そしてお互いの信頼関係を構築することの大切さを知ることが出来ました。視界を奪われた状況で運動を行うことは想像をはるかに上回る難しさがありました。本日の体験は目の不自由な方が生活する上でどのような困難があるのかを知り、バリアフリーについて考える貴重な機会になったと思います。今後はこの経験を活かして、様々な場面で心配りができるようになれば良いと考えています。またブラインドサッカー自体が初めてである参加者が多かったことから、ブラインドサッカーの認知度が向上につながることに期待しております。本企画は特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会様、一ツ橋ロータリークラブ様、千代田区社会福祉協会様、千代田区サッカー協会様、大塚製薬株式会社様をはじめ、多くの方々のご協力のもと実施することができました。深く感謝申し上げます。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 理工学部経営システム工学科3年 山本 樹輝

4 参加人数 30名(講師3名 学生8名 その他参加者19名)

## 5 企画者の感想

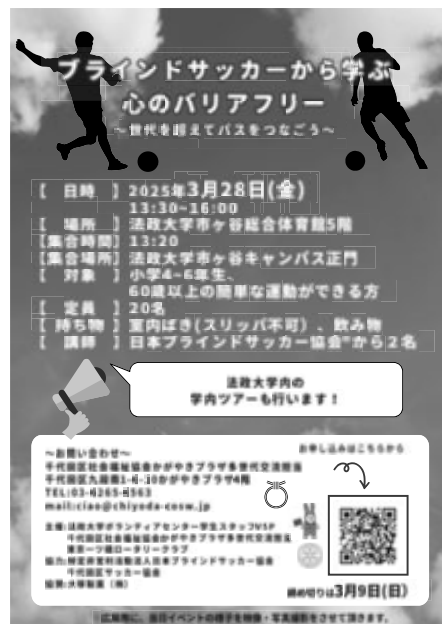
私は、この企画を実施する前はブラインドサッカーについてほとんど知りませんでした。今回、実際に体験してみて、目隠しをすること自体がこんなにも怖いものなのだと感じました。視界が真っ暗になるだけでも不安なのに、その状態でドリブルやシュートをするのは本当に難しいことだと思いました。体験の中では、目隠しをした相手に対して、どのような準備運動をしているかを言葉だけで伝える場面がありました。言葉で説明することの難しさを実感するとともに、自分が思っていることと相手の受け取り方にズレがあることに気づき、相手の立場に立って考えることの大切さを学びました。また、目隠しをした状態で五十音順に並ぶという活動では、声を出さなければ自分の存在が相手に伝わらず、「そこにはいないのと同じ」になってしまうということを実感しました。その体験を通じて、「自分はここにいる」と発信することの重要性にも気づかされました。今回の多世代交流×パラスポーツ企画を通して、多様性が尊重される今の時代だからこそ、高齢者や子ども、障がいのある方など、さまざまな立場の人の気持ちに寄り添い、思いやりを持って行動していくことがこれからますます大切になると感じました。この体験で得た学びを、今後の自分の行動にもしっかりと活かしていきたいです。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 文学部心理学科3年 渡邊 日花里

## 6 参加者の感想

私は今回初めてアイマスクをして目が見えないという体験をしました。視覚を失うことが、これほどまでに不自由で恐怖を伴うものなのだと実感しました。その状態でスポーツをするなんて、私にはとてもできないことだと思います。本当に尊敬します。これまで障がいのある方と接する機会はあまりありませんでしたが、今後出会った際には、積極的に声をかけてサポートしていきたいと思います。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 国際文化学部国際文化学科1年 鈴木 統翔





最初の準備体操の様子



アイマスクをし声を掛け合う



声を頼りにボールを蹴る



アイマスクをしながらボールを蹴る体験をする参加者



選手からのお話



集合写真

# 70. 手作り人生ゲーム会～みんなで考えて動いて楽しい～

- 1 日程 2025年3月31日(月)  
 2 場所 千代田区かがやきプラザ1階 ひだまりホール

## 3 概要

本企画はグループでアイデアを出し合いゲームのマスを考えてオリジナルの人生ゲームを作成し、完成したゲームで遊びながら、多世代交流を楽しむ体験型企画になります。人生ゲームと一緒に考えて遊ぶことによってコミュニケーションを活発に行い世代を超えた交流をしたいという思い、人生ゲームを通して自身の考えや経験を話すことで、お互いに理解を深めたいという思いで本企画を行いました。一人一人の個性を織り交ぜながら作る手づくり人生ゲーム会は、楽しみながら価値観や経験を共有できるだけでなく、独創性があふれる唯一無二のものを作り上げる経験ができるという点で参加者にとって良い刺激を与えるものになったと感じます。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部日本文学科3年 萩原 そよか

## 4 参加人数 9名(うち学生スタッフ4名、子ども5名)

## 5 企画学生の感想

2時間という短い時間でしたが子どもたちと触れ合い、交流を深めることができたと感じます。本企画は「人生ゲームづくり」という初めての試みであり、さらに小学校低学年から高学年、そして大学生と参加者の世代の幅が大きいことから、企画実施前は企画が成功するのかという不安もありました。しかし始めてみると、参加者それぞれの個性が前面に出た新しい人生ゲームを作り上げることができ、子どもたちはもちろん私たち大学生も常に笑い合いながら企画を楽しんでいる姿がとても印象的でした。また子どもたちが自由にマスの内容を考えたことで、今までにない面白い唯一無二の人生ゲームが完成したことも印象的でした。今回の企画を通じて世代を超えた交流の重要性を実感したので、これからもこのような交流の場を大切にしていきたいと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部心理学科3年 黄金井 菜名

私にとって、普段関わりの少ない世代との交流はとても貴重な経験になりました。参加者の皆さんが楽しそうにジェスチャーゲームを行っている姿、コマのお題や人生ゲームの道の選択を一生懸命に友達と考えている姿、友達とサイコロと一緒に振る姿を見て、とてもうれしく楽しい気持ちになりました。情報のやり取りや会話など、文字でのやり取りが可能となり、直接会わなくても意思疎通が出来ます。しかし、実際に会って相手の顔を見て話し、共に楽しい時間を共有することで相手をより理解できることを再認識しました。参加者だけではなく、企画に協力して下さった方々、また私たち学生スタッフにとっても非常に有意義な時間になったのではないかと思います。本当にありがとうございました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部法律学科1年 藤井 舞風

**Ciao!** 法政大学ボランティアセンター 学生スタッフVSP企画

**手作り 人生ゲーム会!**  
～みんなで考えて動いて楽しい～

大学生と一緒にグループでアイデアを出し合い、ゲームのマスを考えてオリジナルの人生ゲームを作成し、完成したゲームで遊びます!

【お問い合わせ】  
千代田区社会福祉協議会  
かがやきプラザ多世代交流担当  
千代田区九段下南1-6-10  
かがやきプラザ4階  
TEL:03-6265-6563  
mail:ciao@chiyoda-cosw.jp

日程 2025年3月31日(月)  
 時間 14:00～16:00  
 場所 かがやきプラザ1階 ひだまりホール  
 参加費 無料  
 対象 区内在住の小学生以上の方  
 定員 20名(申込順)

お申し込みはこちら  
※事前申込制→

## 手作り人生ゲーム会!

～みんなで考えて動いて楽しい～

法政大学ボランティアセンター 学生スタッフ VSP  
 様々な団体と協力し、生徒主体で企画・立案から当日の運営まで行う法政大学ボランティアセンター所属団体です。環境保全、国際交流、子供支援など多種多様な企画を運営しています。

ボランティアセンターホームページ▶

↓YouTube「法政ボラセンちゃんねる」

ちよだて多世代交流Ciao! ってなあに?  
 「チャオ!」にはさまざまなあじつの意味があります。子どもも大人も気軽にあいさつができる、そんな多世代交流をしませんか?  
 かがやきプラザのひだまりホールで、いろいろな世代が集まって、出会って、楽しめる企画をしています。

【ホームページ】  
<https://www.chiyoda-cosw.jp/ciao/>  
 【Facebook】  
<https://www.facebook.com/chiyoda.ciao/>

開催日・開催時間	手作り人生ゲーム会! ～みんなで考えて動いて楽しい～ 2025年3月31日(月) 14:00～16:00
申込方法・申込締切	
会場	
年代	歳代
参加費(諸参加費)	
メールアドレス	

【FAX】03-3265-1162 【Email】ciao@chiyoda-cosw.jp



ゲームを通して子どもたちとの交流を楽しむ様子



集合写真